

## ②第2期計画策定に当って見直した健康課題

健康課題	課題としてあげた理由
糖尿病予防対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病の有所見者(HbA1c)は男女とも50%を超え、患者発症率も年々増えている。</li> <li>・糖尿病そのものの医療費も多く、その割合は生活習慣病の中で最も多い。</li> </ul>
循環器疾患・高血圧対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心疾患、脳梗塞など循環器疾患にかかる医療費は、他の疾病に比べると高額である。特に男性の虚血性心疾患の患者数、発症率が増えている。</li> <li>・心疾患による死亡はがんに次いで多い。</li> <li>・高血圧の患者数は、生活習慣病の中では最も多く、減少する兆候は見られない。</li> </ul>
糖尿病性腎症重症化予防対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防可能な生活習慣病のうち、人工透析にかかる医療費は糖尿病に次いで多い。</li> </ul>

## 第2期計画の課題と目標

健康課題	目標	保健事業
1. 糖尿病予防対策	糖尿病患者の割合を増やさない	特定健診、後期高齢者健診 地区健康教育等ポピュレーションアプローチ
2. 循環器疾患・高血圧予防対策	高血圧の有所見者割合を減少させる	推定1日食塩摂取量検査の実施 健診会場での個別指導
3. 糖尿病性腎症重症化予防対策	特定健診受診者の新規人工透析移行者をゼロとする	健診結果をもとに情報提供書を発行 特定保健指導 重症化予防事業 運動教室 健診事後指導、健康相談 他

## 中間評価に用いたデータ

- 町の統計情報—年代別人口割合の変化、国保被保険者数の推移
- 国や県の統計情報—平均寿命、標準化死亡比、死因
- 法定報告—健診受診率、保健指導実施率
- KDB—医療費の状況、健診受診率の推移、健診結果状況、患者数の推移、要介護者の状況等

## まず、町の状況を把握

- 人口の変化—高齢化が進み、国保の被保険者数は年々減少

3年間で人口は約850人減、40～64歳の割合は0.8%減。反面75歳以上の割合は1.4%増

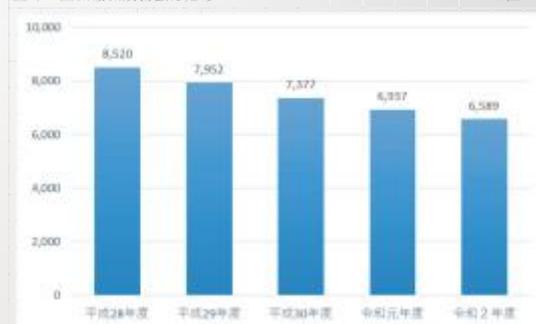
①人口・被保険者の状況  
年代別人口構成

単位：人・%

年代	人口（人）		構成比率	
	平成30年1月4日現在	令和3年1月4日現在	平成30年1月4日現在	令和3年1月4日現在
40歳未満	7,956	7,345	32.9%	31.5%
40～64歳	7,926	7,462	32.7%	31.9%
65～74歳	4,118	4,159	17.0%	17.8%
75歳以上	4,217	4,397	17.4%	18.8%
計	24,217	23,363	100.0%	100.0%

資料：横芝光町年令別人口統計表

図4 国保被保険者数の推移 単位：人



資料：国民健康保険毎月事業状況報告書（各年度4月1日）

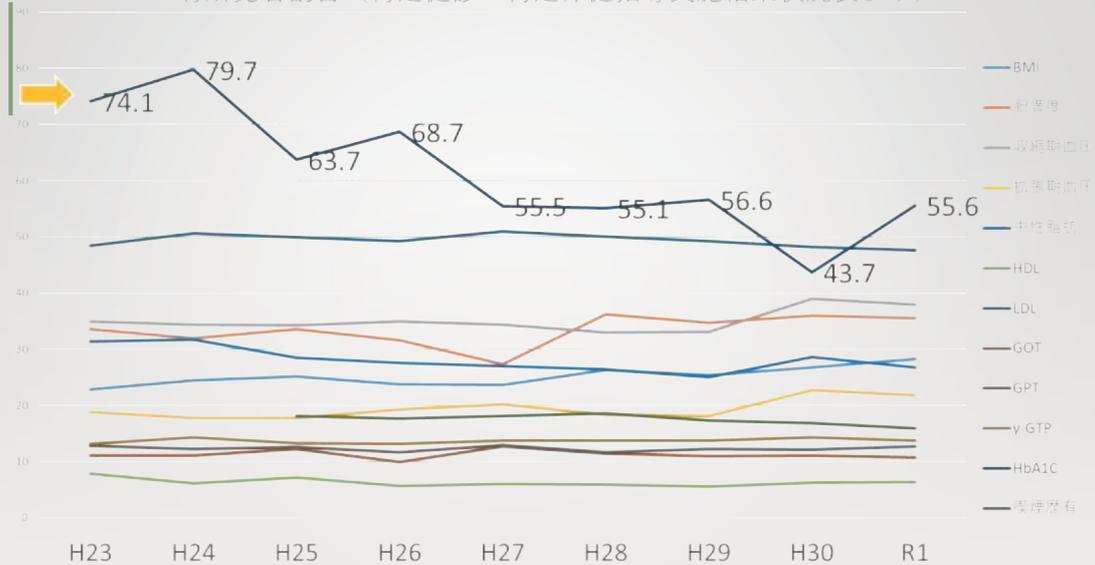
## 中間評価で見た課題（課題1）

- 糖尿病予防対策を重点に保健事業を実施し・・・

→HbA1c5.6以上の有所見者割合は減ったが、数値の高い方が多くなっている。また、糖尿病患者の推移をみると年々増加している。



有所見者割合（特定健診・特定保健指導実施結果状況表より）



## 課題1 評価指標と実績

	評価指標	H29年度	R元年度 (2019年)	R2年度 (2020年)	中間目標値 (2020年)	最終目標値 (2023年)
アウト プット	ポピュレーションアップ ローチ数※1)	15回	21回	2回	18回	21回
	個別指導割合 (※2)	11.3%	17.3%	53.3%	11.0%	20%
アウトカ ム	有所見者割合 (※3)	55.1%	55.6%		53.5%	51.5%
プロセス	毎年実施経過について評価する					

※1 各団体・地区健康教育の数

※2 健診時のHbA1c値6.5以上（前年度結果）の個別指導数／受診者数

※3 千葉県国保連合会「特定健診・特定保健指導実施結果状況表」より  
(HbA1c値5.6%以上の総数割合)

## 国保ヘルスアップ支援事業個別相談を受けて

- 人口構成によりレセプトデータや疾病状況はデータが変化する。
- データの取り方で見え方が変わる。母数が少ないと割合で見ると極端に変化してしまう。人数で見るとも検討を。
- 経年変化でみた方が良いもの、近隣市町や同規模市町と比較した方が良いものなどデータごとに何を見たいかで考える。
- HbA1cの高い方が多い・・・全国的にHbA1cは65歳以上で高くなる傾向がある。

横芝光町の受診者状況を見ると、65歳以上の割合が多い。

→有所見率だけでなく、受診者の年齢構成も併せてみる必要あり。